

---



---

 学 会 記 事
 

---



---

## 第 6 回新潟血液免疫学研究会

日 時 平成 3 年 2 月 15 日 (金)  
 会 場 有壬記念館 2 階 大会議室

## I. 一 般 演 題

## 1) 皮疹を伴った LGL の 1 例

黒川 和泉・曾我 謙臣 (長岡赤十字病院)  
 藤原 正博 (内科)

症例：41才，女性。1989年8月，マイコプラズマ肺炎で当科初診，以後上気道炎で時々当科を受診した。1990年3月，リンパ球増加症，好中球減少症がみられ，精査により CD2, 7, 11, 16, T31 陽性，CD3, 4, 5, 8 陰性の顆粒リンパ球増殖性疾患 (GLPD) と診断された。Leu7 陽性細胞は37%，染色体分析は正常核型で TCR β 鎖の再構成はみられなかった。一方皮疹は1990年5月頃より著明となり，両側前腕部に小さい環状の紅斑を呈した。組織は上皮の有棘～基底部を中心とするリンパ球浸潤であり免疫学的に T細胞で CD2+, CD3, 4, 5 ±, CD10, 20-であった。

考察：本例は一次性的特発性 GLPD であるが，GL 白血病およびその皮膚浸潤も疑われ，経過観察中である。

## 2) 急性リンパ性白血病 (ALL) 完全寛解時に発症し，ST 合剤，ペンタミジン，メチルプレドニゾン大量療法が奏効した急性呼吸不全の 1 例

佐藤 直明・小山 寛  
 高橋 芳右・柴田 昭 (新潟大学第一内科)

症例：32歳，男性。主訴：発熱。現病歴：1990年5月微熱，倦怠感出現。6月8日当科入院し ALL の診断にて，6月9日より DVP 療法を施行した。7月2日に完全寛解を確認し，PSL の減量を行っていたところ7月13日より38℃を越える発熱が出現した。経過：ST 剤の予防内服を施行していなかったためカリニ肺炎も疑い7月15日より ST 剤の投与を開始した。解熱傾向が認められたが，両肺にスリガラス様陰影が広がり，PaO<sub>2</sub> 46 mmHg，PaCO<sub>2</sub> 27.9 mmHg と低酸素血症の進行，呼吸困難の出現が認められたため，7月19日より mPSL の大量投与を併用した。7月21日より，ST 剤の内服

困難のため pentamidine の点滴を開始した。DIC も合併していたが，7月20日頃より改善傾向を認め，7月31日には臨床症状は消失した。7月18日の血清で Pc 抗原が検出された。

## 3) 免疫グロブリン補充療法開始後 7 年を経た common variable immunodeficiency の 1 例

石原 清 (新潟大学医療技術短期大学部)

症例は23才，男性。1984年2月発熱・易感染性を主訴に新潟大学第三内科に入院。低γグロブリン血症を認め，精査の結果 B cell marker 陽性細胞の著減と suppressor 活性の亢進が証明され CVI と診断。同年3月より乾燥スルホ化免疫グロブリン製剤 (venilon) の補充療法開始。以後同剤を 10 g/4～5W 投与し，血清 IgG は 500 mg/dl 前後に維持された。7年間の経過中上気道感染は繰り返されたが治療前の様な肺炎の発症はなかった。血清 IgA は著減していたが胆汁，胃液，唾液中 IgA は正常範囲内に認められ消化器症状が皆無のこととの関連が想定された。患者血清中には免疫グロブリン製剤由来と考えられる HCV marker が検出されたが，肝炎の発症は全経過中みられなかった。また同剤投与による副作用も現在までに認めていない。

## 4) 担脳腫瘍マウスにおける胸腺非依存性抗原を用いた免疫学的二次応答の解析

吉田 誠一・田中 隆一 (新潟大学脳研究所)  
 小野 晃嗣 (脳神経外科)

生体は抗原の再侵入に対し，MEMORY CELL を使って，IgG 主体の，より速やかで強力な 2 次応答を示すが，担脳腫瘍の状態でどのように影響されてくるかを調べ，両 SYSTEM の相互作用に関して検討を行って見た。B6 MOUSE は，LPS などの胸腺非依存性の Ag に対しても，反応することがわかっており，このマウスの spc を，MHC が一致し LPS に反応しない B10 マウスに移入し，ハプテン TNP 結合 LPS で刺激すると RECIPIENT MOUSE B10 は移入細胞を使ってハプテン特異的 2 次応答を示す。そこで，血中の抗 TNP 値を追跡し，PURE な細胞別に 2 次応答を解析した。B10 に B6 SPC を移入の時は，VIRGIN よりも TNP-LPS 感作 SPC がより強力な 2 次反応を示し，脳腫瘍マウスから移入された MEMORY CELL を使う場合は Ab の産生と維持は control と同じだが，IgM